

製品名: APLP2 (リン酸化 Tyr755) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04247**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	APLP2
別名	APLP2; APPL2; Amyloid-like protein 2; APLP-2; APPH; Amyloid protein homolog; CDEI box-binding protein; CDEBP
遺伝子 ID	334.0
SwissProt ID	Q06481
免疫原	抗血清は、ヒト APLP2 の Tyr755 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 714-763

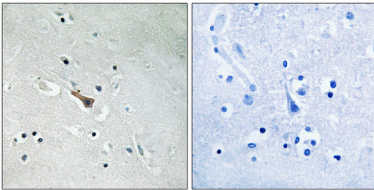
背景

この遺伝子は、アミロイド前駆体様タンパク質2 (APLP2) をコードします。APLP2は、APP、APLP1、APLP2を含むAPP (アミロイド前駆体タンパク質) ファミリーのメンバーです。このタンパク質は普遍的に発現しており、N末端にヘパリン、銅、亜鉛結合ドメイン、中間領域にBPTI/Kunitz 阻害因子ドメインとE2ドメイン、C末端に膜貫通ドメインと細胞内ドメインを有します。このタンパク質は、主要組織適合遺伝子複合体 (MHC) クラスI分子と相互作用します。このタンパク質とAPPの相乗効果は、神経筋伝達、空間学習、シナプス可塑性の媒介に必要です。このタンパク質は、アルツハイマー病の病因に関与していることが示唆されています。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。 [RefSeq 提供、2011年8月], 代替製品: 追加のアイソフォームが存在する可能性がある, 機能: 止血の調節に関与する可能性がある。可溶性型は凝固因子に対する阻害特性を有する可能性がある。細胞内Gタンパク質シグナル伝達経路と相互作用する可能性がある。DNAの5'-GTCACATG-3' (CDEIボックス) に結合する可能性がある。トリプシン、キモトリプシン、プラスミン、第XII因子、血漿および腺性カリクレインを阻害する。 , PTM: BPTI/Kunitz 阻害ドメインはO-グリコシル化されている。 , 類似性: APPファミリーに属する。 , 類似性: 1つのBPTI/Kunitz 阻害ドメインを含む。 , サブユニット: CPEB1と相互作用する。 , 組織特異性: 胎盤、脳、心臓、肺、肝臓、腎臓、および内皮組織。 ,

研究分野

神経科学

画像データ



APLP2 (リン酸化 Tyr755) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。